



さいたま市介護支援専門員協会
ロゴマーク

PARALLEL STAIR

Vol.35

2014 年秋号

平成26年度 第2回全体研修

「ケアマネジャーの声のチカラで介護を変える」

開催日時 平成26年7月26日（土） 14時00分～16時50分

開催場所 浦和ふれあい館 第一会議室

7月26日（土）浦和ふれあい館 のチカラ」である。印象度の中でも、
において「第2回全体研修」が開 視覚情報に次いで聴覚情報（声の
催された。 質、話し方、聞き方）となっている。

今回の全体研修は、「ケアマネ コミュニケーションは15秒で第一
ジャーの声のチカラで介護を変え 印象が決まってしまい、イメージ
る」をテーマに、株式会社ボイス だと5～6秒で決まるといふ。会
クリエーションシニクル 代表取締役 話の第一声はとても大事で、呼吸
役佐藤恵氏より講義が行われた。 が整っていると安定した声が出る。

ケアマネジャーがサービスや制 話し方にも気をつけ、客観的な話
度を分かりやすく説明するために、 し方として伝えるべき言葉は、二
また利用者やその家族の信頼感を 音上げると良い（強くなると押し
高めるために武器となるのが「声 付けのようになる）。また、思いを



込めた話し方などは、メリハリをつけて話すことが大切。「話の間」を有効に使うことで、相手に対してしっかりと言葉の印象を残せる)

佐藤氏は、話し手の印象は、聞き手にとって内容は7%程度とわずかで、それ以外の93%で判断されてしまうという。ご利用者、介護者の方との会話で、このようなことを考えながら話していたのか、一方的で、押しつけになっていなかったか、すごく考えさせられた。

言葉の使い方、声のトーン、視線など配慮していくことの大切さ、ケア

マネが一方的な話し方、押しつけになっていては、ご利用者、介護者も心を開くことができない。アセスメント、サービスク画においてもご本人の気持ちを取り込めない内容となってしまう。

今回の研修で、話し方、関わり方などの大切さが分かり、今後ご利用者、介護者と関わる時は、本日の研修を思い出し、心の通った関わりが持てるように努めていきたいと感じた。

平成26年度 第3回全体研修

「在宅医療 医療連携について」

開催日時 平成26年9月29日(月) 14時00分～15時30分

開催場所 武蔵浦和コミュニティセンター 8階 第7・8会議室

本年度 第3回全体研修は「在宅医療 医療連携について」をテーマにフォレスト在宅クリニックの医師 鈴木剛氏より、現在、在宅医療に携わっている立場からお話をいただいた。

鈴木氏は平成26年に南区四谷に開業。白衣を着ないで患者の自宅

へ訪問し、親しみやすいかかりつけ医として活躍している。

鈴木氏は、在宅医療は「暮らしの場での医療」で、個のライフスタイルに合わせた療養者の多様な選択に応え、生きることを支える総合医療であり「死」を見据えた医療であると説明。またクリニック



クを利用してしている患者は、がんや認知症など各種疾患を持っている方や胃ろう、在宅酸素、ストマなどの管理が必要な方々。そうした患者が自分らしい暮らしを続けられるように、安心や心地よさを感じてもらえる医療を提供することを目指している。

家で支えるためには、本人が在宅療養を望んでいること。家族が在宅ケアを支える覚悟があること。そして、ケアチームのメンバーが(ケアマネ、医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、栄養士、ヘル

パー、ボランティア、行政など)それぞれの役割分担を行い、お互いに役割を理解し、支え合い、誰も無理をしない、犠牲にならないことが大切と話した。

家で看取ることについて、患者自身は自宅にはいたいが、「あきらめて」「しかたなく」病院を選択する場合が多い。在宅ターミナルを実践する際の問題点として、「準備不足のまま在宅へ戻される」「病名告知や予後、今後の予測についての説明がないまま退院する」「家族の経験のない死への恐怖」「在宅を支えるネットワークが不十分」等がある。



そのため医療と介護の連携が重要なことは、関わる誰もが認識している。「かかりつけ医」と「ケアマネジャー」がキーパーソンであり、連携を図ることにより患者は安心した在宅生活を送れるようになると述べた。

連携の難しさとして、ケアマネは忙しい医師への連絡を控えてしまふことがあり、「必要以上に敷居が高いと思ってしまう」「専門用語が多く理解できない」などが挙げられる。また、医師からは「もっと医療的知識を持ってほしい」「入浴許可やリハビリ実施確認を求められることがあるが、月1〜2回の診察で指示を与えることは難しい」「医師が介護保険の仕組みを理解していない」などが挙げられる。

鈴木氏が一番最初に関わった末期がん患者の実際の事例では、経過などを説明され、鈴木氏は「家族やケアスタッフなど周りの人たちがよくやってくれたという印象を持った」と話した。

最後に「介護の必要な人の尊厳を保持し能力に応じ日常生活を営むことができるようにする」という介護保険の理念に沿って、「医療と介護の連携を進めていかなければいけない

い。包括的にコーディネートする役割を担うケアマネジャーの役割が不可欠であることを私たち医師がしっかりと認識することが大切」と話した。その後、フォレスト連携担当の戸嶋文紀氏より訪問診療の一般的なQ&A事例の説明があり、参加者からの質疑応答があった。訪問診療の基本的なことがよく分かったと参加者からの感想だった。



「緑太郎ケアマネカフェ」
開催日時 平成26年8月29日（金）、9月30日（火）
開催場所 おふくろさん集会所

緑区のゆるキャラ緑太郎がケアマネ会で活躍していることを、区役所の方々にも大変喜んでいただいております。嬉しい今日この頃です。

さて、そんな緑太郎ケアマネカフェも8月29日（金）、9月30日（火）とおふくろさん集会所にて開催し、回を重ねるごとに盛り上がりつつあります。

困りごと相談、質問コーナーにあがったことの討論会、改正後の介護保険制度の行方を語り合うなど、活



気にあふれ、福祉用具やデイサービス相談員によるサービスの紹介も行われ、ケアマネだけでなく他の職種の人と交えての有意義なカフェタイムとなっています。

また、初めて参加したケアマネさんが何人か協会に加入してくださいました。

今後も緑太郎ケアマネカフェは、あまりかたくならずに、ざっくばらんに情報交換や交流が図れる場として続けられたらと思っています。

緑太郎、大活躍!!!



「施設ケアマネのためのストレスとつき合う技術 〜性格分析をして対処法を身につける〜」

講師 浦和すずのきクリニック 臨床心理士 鈴木淳也氏
開催日時 平成26年9月20日(土) 14時30分〜16時00分
開催場所 武蔵浦和コミュニティセンター第3集会室

「今日の研修会は明日になつても思い出しはいけません」「暗記したら絶対に思ひ出さないように努力をしてください」という不思議な(?)メッセージから始まった研修会。

三種類の調査表を用いたテストを通じて自分自身の性格傾向や考え方のクセを知り、ストレスを感じるなどのような症状が出やすいのか、陥り



やすい推論の誤りはどんな傾向にあるのか、そして考え方のクセにはどのような対策が可能であるのかなどを詳しく学ぶことができた。所謂ひとりケアマネは、その置かれている環境故に考え方が「根拠のない推論」に陥りやすい。例えば、直接言われていないのに決めつける、噂している同僚を見て「きつと嫌われているに違いない」「どうせ」と思ってるんでしょ」などが口癖。そんな方には、自分の考えていることとは別の可能性がないかを考える。100%そうなのか? 1%でも他の解釈の可能性はあるならば、その解釈の仕方は?と問いかける。それって本当に自分のこと?直接言われたか?を問いかける。直接言われていないことは自分の思い込みの可能性があると認識する、とう対策法がある。

また、眠れないときの対策、考え込みから抜け出すコツ、効果的なストレス対処法と逆効果の対処法、人間関係を悪化させないコミュニケーションの方法などを教授していただいた。

忘れようとするために別のことを考えるという思考ルールには、忘れようとするそのことが前提にあるために忘れ

第2回 事例検討会

「リフレクションを用いて事例検討」

開催日時 平成26年9月6日(土) 14時00分〜17時00分
開催場所 武蔵浦和コミュニティセンター 第4会議室

武蔵浦和コミュニティセンターで9月6日午後2時から5時まで、神奈川県立保健福祉大学 社会福祉学科 峯尾武巳氏をお迎えして9名の参加で開催された。

人数は少なかったが、峯尾氏は「大学のゼミと同じ人数なので、問題ない」と言われ、ゼミの授業と同じように講義をしていた。参加者は落ち着いた雰囲気、声がかたかったという声がかたかった。内容は自分を振り返る事例検討

たことにはなっていない。考えている理由を忘れていなければ本当に忘れたことにはならないからである。翻って、日々鍛錬することで身につけた知識を実践できるように、今日の研修内容を思い出さなくなることが大切なことなのだ、という結論で締めくくられた。

参加者からは、「ストレスことはご利用者との間でも同じことが言える。ケアプランを決定するときに、ご利用者の意見を尊重するという視点はあったか、ただ「傾聴」していただけたのではないかと考えて、これからは対応に気を付けようと考えさせられた。



清水さいたま市長との懇談会

平成26年9月13日、清水
勇人さいたま市長をお招き
して懇談会を開催いたしま
した。

さいたま市介護支援専門
員協会からは宮本好彦会長、
野崎直良顧問他役員数名と
関係機関の方数名が参加い
たしました。

和やかな雰囲気の中で懇
談会は進み、当協会からは
ケアマネジャーの業務や高
齢者福祉・介護の現状を清
水市長にお伝えをいたしま
した。

一方、清水市長からはさ
いたま市の高齢者の現況を
お話ししていただき、大変
有意義な会となりました。



宮本好彦会長・野崎直良顧問がラジオに出演

8月3日(日) FM浦和
(愛称 REDS WAVE
E 78.3MHz)に宮
本会長、野崎顧問がラジオ
出演しました。

放送区域は、さいたま市
浦和・中央・緑・大宮・見
沼各区で、域内の人口は約
90万3000人、スタジ
オは浦和ワシントンホテル
1階にあります。
ラジオパーソナリティー

は、DJハミオ氏と佐藤恵
氏(第2回全体研修会 講
師)で、パーソナリティー
からの様々な疑問や質問に
答えながら行われました。

宮本会長、野崎顧問から
は、在宅介護と施設介護の
違いやケアマネジャーの仕
事、当協会の活動について、
リスナー(介護をよく知ら
ない方)にわかりやすい言
葉でお話されました。



平成26年度 さいたま市「介護の日」フォーラムのご案内

～安心は地域の絆から～ だれがどう支える？ これからの介護

- I部 ① 講演 医療福祉介護専門職の現状と今後について (講師 宮本 好彦氏)
② パネルディスカッション…医療機関や介護事業者の「支援する側」の役割とは
- II部 中学生職場体験事業「未来くるワーク体験」報告
- III部 ①講演 介護する人(ケアラー)を地域で支えるために (講師 堀越 栄子氏)
②パネルディスカッション…介護する人(ケアラー)に必要な地域の支援とは

【日時】 平成26年11月11日(火) 午前10時00分～16時00分(開場:午前9時45分～)

【会場】 大宮ソニックシティ4階 市民ホール(第2～第4集会室)

ちょっと coffee break

ライフイベント 会員A

息子が就職した。そして、地方での仕事のため住民票を移し、世帯が別になった。当然のことながら、世帯構成員が減り、食材量も減り、洗濯の量も減った。今まで何から何まで、さまざまな事柄が増え続けた日常だったから、事実と感覚が追いつくのにしばらく時間がかかった。

そこで仕事と関連させてしまう自分が悲しいところだが、よく高齢者が味わう「喪失感」とはこんな感じ、と思い当たった。去年は100歳を超えた祖母が、一昨年は父が他界しているが、いずれも結婚後は生活を共にしていない。帰省すれば「ああ、もういないんだな」と思うが、いくらも滞在しないので、さほど実感として湧いてこない。(お父さん、おばあちゃんごめんなさい)

今まで生活を共にしていた人がいないという

「喪失感」。地方で子供が仕事をしている。という前向きな事ならまだいいが、一緒にいた夫を失った母は相当気落ちしたことだろう。独居老人になったのだから。「何にもやる気がしなくてね、仏壇の前でお経も唱えずにお父さんと話をしているの」と言っていたっけ。弟たちと何かと立ち寄るようにしていたが、それでも母は自分を支えるのに必死だったに違いない。

「寄り添う」とか「共感する」とか仕事柄、日頃から心得ていたはずだが、やはり人間の性でその身になってみないとわからないのだと思った。これから残りの人生さまざまなライフイベントが訪れるだろう。その都度あらがっていたのでは、身が持たない。しかし、流されるのも悔しいものだ。せめて何でも成長の糧として、捕まえていこう。ポジティブ思考が取り柄の私なのだから。

あとがき

遠くの間々も美しい綿のよそおいをととのえ、紅葉の美しい季節となりました。澄みわたった青空に柿の実が一つ残り、秋の風情をかもしています。

昼の暖かさにかかわらず、夜は一転、ぐっと冷え込むことが多くなりますので、風邪など召されませんようご自愛ください。

事務局

〒331-0823 埼玉県さいたま市北区日進町2丁目1864-10

JS日進 さいたま市社会福祉協議会内 さいたま市介護支援専門員協会

電話 048-782-6839 FAX 048-782-6840

リニューアルしたので見てくださ~い!!

ホームページ

<http://www.saitamashi-keamane.jp>

さいたま市介護支援専門員協会

検索